

記念物  
【天然記念物】

リュウキュウキンバト  
*Chalcophaps indica*

指定年月日／1972（昭和 47）年 5 月 15 日  
所在地／地域を定めず指定



撮影：嵩原建二

キンバトは、インド、東南アジア、ニューギニア、オーストラリア北部などに広く分布し、それぞれ地域ごとに少しずつ変化があり、リュウキュウキンバトはその亜種である。八重山諸島及び宮古島の固有亜種で、日本に生息するハトの中では最も小さい全長 25 cm ほどの小型のハトである。

金緑色の光沢のある翼に被われ、頭部は青灰色で額から目のあたりは白くなっていて、顔から腹にかけて一面やわらかなブドウ色をしている。また、細いクチバシと足は美しい赤色を帯びている。日中は林の中などで生活し、

日の出や日没頃になると林道や草原、農耕地などに舞い降りてきて、主に草の種子などを餌としているが、時には小さな昆虫なども食べることもある。飛び方に特徴があり、木の高さすれすれのところを、物凄いスピードで一直線に飛ぶ。地上からあまり高くない枝に巣を作り、クリーム色の卵を 1～2 個産む。

記念物  
【天然記念物】

ジュゴン  
*Dugong dugon*

指定年月日／1972（昭和 47）年 5 月 15 日  
所在地／地域を定めず指定



インド洋から西太平洋まで、広い範囲の浅海で生息し、琉球列島近海が北限とされている。方言では「ザン」とか「ザンノイユ」と呼ばれている。人魚のモデルとしても知られており、波間に顔だけを出し、左右の前ヒレで子を抱いている姿が、人間にそっくりだったことから想像されたと言われている。人魚は世界各地の物語に登場しており、石垣島でも桃里の漁師が人魚を助け、その恩返しとして事前に大津波がくる事を教えてもらい、難を逃れたという人魚伝説が残っている。

成体の体長は 3 メートルに達し、雄の体重は時には 300 kg を超す大型の海棲

哺乳類である。動作は鈍く、泳ぐスピードも時速 3.6 km 前後と言われ、外敵に対して防衛手段を持っていないため、特殊な道具や技術がなくても容易に捕獲出来るので、古い時代から世界各地でしきりに捕獲されてきた。

琉球王国時代には、新城村（現在の竹富町新城）に対して、税として献納するよう命じられたこともあり、島にはその捕獲をうたった「ざんとうりゆんた」や、豊漁祈願を行った東御獄がある。